

～今、市民の森では！～



昆虫もたくさん載っています

作成:NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shinrin_bunka@yahoo.co.jp)
掲示許可:茅野市 環境課 環境保全係

毎年、一般募集して結成した月例観察会メンバーにより、月一回の月例観察会を行っています。そのメンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。お問い合わせは 75-1772。

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

今年も始まりました。(悦)

市民の森ガイドブック発行を契機に、一般の方にも呼び掛けて開始した月例観察会も、10年目がスタートしました。5年目の末に、観察した事柄、蓄積した写真をもとに、ガイドブック2も発行しました。今年も、色々な発見がありますように。



市民の森デビュー (綾)

足元から頭上まで、見逃してしまうのがもったいないくらい、たくさんの樹木や植物のお話が聴けて、とても楽しい時間でした。寒くなかったら、午後もお話伺いたかったです。仕事柄、樹木や植物の香りにはとても馴染みがあるのですが、植物の生体そのものをもっと知りたいと思うようになり、観察する眼を養うために、観察会に申込みました。皆さんの着眼点に感動しました。アカマツの蒸留をしているので、アカマツにまつわることも、また色々調べていきたいと思っています。

もうすぐ、アカマツの雌花、雄花が観察できますよ。(悦)

葉脈で見わかる (w,k)

ミドリヒメザゼンソウとウバユリ(ウバユリ)の葉の見かけ方は葉の色ではなく葉脈を見る事。ミドリヒメザゼンソウのは少し上向き。ウバユリは少し太めに横に。二つが並んでいると見分けやすいのだけど。



ウバユリ①97



ミドリヒメザゼンソウ②83

記号の説明:

- ①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照
- ②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

ガイドブック2「森を楽しむ」は、2017年3月に発行し、只今、300円で販売中。

《取扱所》 茅野市尖石縄文考古館
茅野市北山 カフェ 午後の森

《問合せ》 NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会
☎: 0266- 75-1772

市民の森の出会い 4月 (矢)

ハリゲコモリグモ ②136



沢沿いの小径で、卵のう(卵の塊)をお尻に付け移動するハリゲコモリグモの母さんに出会う。このクモは所謂くもの巣を作らない、徘徊性クモで、卵や孵化後の子を負い、子グモが独立するまで見守るそうだ。

大半のクモは産卵後死んでしまうため、子育てをするクモは少数派。ガンバレ母さん！

磁石に付いた砂鉄 (SU)

空模様を気にしつつの、今年最初の観察会でした。せせらぎの中から砂鉄が！ 森の観察会には磁石も必需品。

磁石に付いた砂鉄の並び方を見て、小学生の時の理科の実験を思い出しました。

植物たちの芽吹き色は、少し遠慮しているように柔らかく穏やかで、これからの成長の様子を楽しめます。

花は少なかったけれど大好きなエナガにも出会えて、午前中だけの観察会でも、充実の時間でした。

不思議発見 (池)

いつもながら、皆さんの新しい気付き・発見には感心します。もう何年も、何回となくこのフィールドに来ていながら、その都度新しく様々な疑問・発見を何方が提言されます。今回は伏状繁殖であるエビガライチゴが話題の一つになりました。植物浅学・音痴？の私は、勿論初めて知りました。

不思議発見、目から鱗大好きな私は、運動不足解消という不純な参加動機に加え、新しく不思議発見の動機も加えたいと思います。ということで、今後ともよろしく！

4月観察した昆虫 (悦)

成虫越冬

●エルタテハ②112



●ルリタテハ②112



幼虫越冬

●ミヤマセセリ②107

4月観察した花 (悦)

- フクジュソウ
- ダンコウバイ①66
- アブラチャン①66
- キブシ①67
- タネツケバナ
- センボンヤリ 蕾①69



- フサザクラ①66
- ミヤマウグイスカグラ①67
- ツノハシバミ①67
- ヒナスミレ②70
- アカネスミレ②70
- タチツボスミレ①77

「分解者の働き」を実感 (直)

今までの初春の時期はモノクロと思込んでいましたが、ちゃんと見れば、新芽や花だけでなく、枯れ葉の色も種類によって違い、この時期ならではの色があふれていることを知りました。

また、ホオノキの所での分解者の働きには感服しました。今まで、葉の大きなホオノキの存在は



目立っていて、植物名に疎い私でもすぐに見つけることができましたが、よくよく考えてみれば、その大きな葉が毎年毎年積み重なってしまったら、地面は大変なことになってしまいますね。そうならないのは、ミミズや菌の働きがあるからだということを机上ではなく心で感じることができました。見えていないところにも思いを馳せる、気づける、想像する、そんな視点を教えていただいたように思います。今後の観察会を通して、そんな目も養っていきたいと思います。

見分け方 (洋)

久しぶりに日常を忘れ、自然の世界に触れることができました。

自然界はとてつもなく広く奥深いものであることを改めて感じました。

この時季から参加させて頂くと、それぞれの植物や昆虫などの一生を追いかけて観察できて楽しさがさらに増えます。

可憐なミドリヒメザゼンソウの花を見てみたいです。

コブシの花に添えられている一枚の葉が優雅に思えた。

ミヤマウグイスカグラはもう6月に実を結ぶのだな〜と。

それを待っている野鳥がいるんだろうな。

こちらは、5月の霞桜、新緑を楽しみに待っていようと思います。



枝ぶりも個性がありますよ。(悦)

葉のない今の時期、枝ぶりの違いの理由を考えてみよう。



ミズキ ①127



ヤマナラシ ①126



コブシ ①120



グリーンソウの葉 ①79



フサザクラ ①66



フサザクラ



オオイヌフグリ ②73



心地良い里山の散歩 (吉)
 毎年4月からの観察会。でも同じ景色は観察出来ない。
 今年はどんな感じかなって楽しみにしている。
 気が早いが山菜は？実？夏は？秋の紅葉は？と巡る。
 心地良い里山の散歩が毎月行えますように。

色々 (黒)

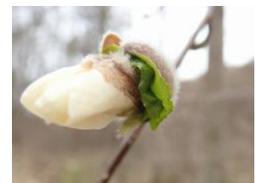
まず、枯れ葉の中から背を伸ばして咲いているスミレの可憐な姿。まだまだ寒い日もあるのに元気だなあ！クロモジの花芽がかわいらしい。咲いたら、まさに、両手に花ですね。



コブシのピロード状の外套、あったかそうではしょくらしい。家に帰って、庭のシデコブシの花を見たら、つぼみの状態で、ピロードの外套は3重になっていました。コブシも一緒かな？

春が忘れずにめぐってきたよ。(口)

- 樹高が高く見ることが出来ないコブシ花を今回は目線で確認、花の横に葉が一枚あることを確認しました。そして花芽の周りに葉が何枚か出待ちでいます。
- クロモジは硬い冬のコートをして柔らかな新芽になっていました。
- バッコヤナギの雄花は役目を果たして、たくさん道に落ちていました。(雄しべ→)
- タチツボスミレは群生して咲き誇っていました。
- ホオノキの枝が落ちた跡が膝小僧に見えてなりません。



サワギクの葉 ①87